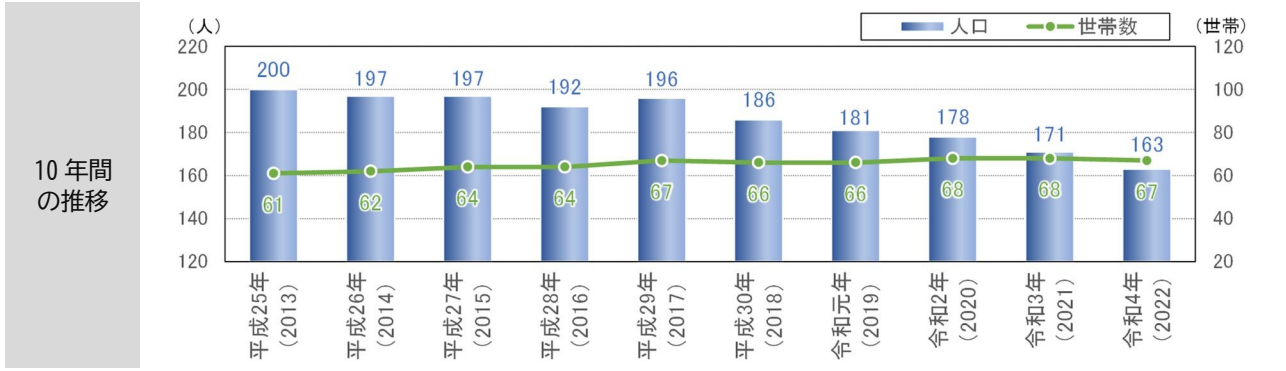
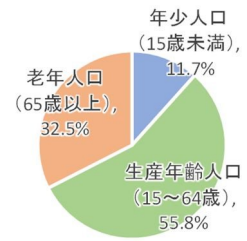


	世帯数	人 口	年齢別人口
現 在	67 世帯	163 人	15 歳未満 (年少人口) 19 人
			15~64 歳 (生産年齢人口) 91 人
			65 歳以上 (老年人口) 53 人
約 50 年前	47 世帯	222 人	



10年間の推移

歴史等

ほうどうせんにかいき ほうふん こだに せきしつ けいちよう  
 法道仙人開基の伝承をもつ醫王寺の境内には、古墳時代後期後半の7世紀前半に造られた町内唯一の方墳である神谷古墳があります。石室の全長は11mと神崎郡内では5番目に長く、地域の有力者が埋葬された古墳であると考えられています。

りつりょうせい たかおかのかもと たかおかのしやう  
 古代律令制では播磨国神前郡高岡里、中世は高岡荘に含まれたと考えられます。「こうたにむら」とも称しました。近世は豊臣氏の領地となった後、慶長5年(1600)からは姫路藩領となり、大庄屋組は山崎組に属しました。明治8年(1875)に神谷村・桜村・長野村・板坂村の4村が合併して高岡村が成立しました。なお、『兵庫県播磨国地種便覧』によると、明治14年(1881)の高岡村の戸数は188戸・人口は990人でした。高岡村は、明治22年(1889)に福崎村の大字となりました。



大歳神社



醫王寺



阿弥陀三尊立像と名号塔 (醫王寺)



秋祭り・屋台



神谷古墳



一石一字塔 (神谷西墓地)

※現在の人口・世帯数・年齢別人口は令和4年5月末時点、10年間の人口・世帯数の推移は各年5月末時点、約50年前の人口・世帯数は昭和52年6月末時点であり、いずれも住民基本台帳による値です。なお、年齢別人口のみ外国人を含む値になっています。

歴史文化遺産一覧

分類	名称	年代	概要	歴史文化ものがたり								
				①	②	③	④	⑤	⑥			
建造物	建築物	1	大歳神社	近代	近代の神社建築。木造、瓦葺。昭和52年(1977)頃に改修した記録が残る。					●		
	石造物	2	阿弥陀三尊立像(醫王寺)	昭和5年(1930)	阿弥陀三尊の石仏。台座正面には造立年月とともに施主又は願主と思われる3名の名が記されている。					●		
		3	大日如来立像(醫王寺前)	昭和8年(1933)	大日如来の石仏。正面には大日如来の文字、像容、建立年月とともに「御着村岸田氏先祖代々」と記されている。					●		
		4	地藏菩薩立像(醫王寺)	寛保元年(1741)	地藏菩薩の石仏。正面には「仏灯法師祐国」の文字と像容、造立年月が記されている。					●		
		5	地藏菩薩立像(醫王寺)	不明	地藏菩薩の石仏。					●		
		6	六地藏(神谷墓地)	明和3年(1766)	六地藏の石仏。うち1基の正面には「念仏講中」、別の1基の正面には造立年が記されている。					●		
		7	名号塔(醫王寺)	宝暦4年(1754)	正面には梵字と「南無阿弥陀仏」、右には造立年月、左には「念仏講中」の文字が記されている。					●		
		8	一字一石塔(神谷墓地)	寛政10年(1798)	正面には梵字と「大乘妙典一石一字塚」、右に造立年月日が記されている。					●		
		9	石鳥居(大歳神社)	文久2年(1862)	石鳥居。右柱正面には「奉」の文字と造立年月、左柱正面には「納」の文字と願主、背面には石工が記されている。					●		
		10	石鳥居(大歳神社)	昭和23年(1948)	石鳥居。右柱正面には「奉」、背面には施主、左柱正面には「納」、背面には造立年月日が記されている。境内社稲荷社の鳥居で、かつては多数の赤色の木製鳥居が立ち並ぶ中があったが、現在はこの石造鳥居と基礎が残るのみである。					●		
		11	石灯籠(大歳神社)	大正9年(1920)	石灯籠。神前型。正面には「献灯」、右に造立年月が記され、台石の正面には願主等が記されている。					●		
		12	石灯籠(大歳神社)	昭和5年(1930)	左右一対の石灯籠。右灯籠の正面に「献」、背面に造立年月等、左灯籠の正面に「灯」、背面に願主が記されている。					●		

※歴史文化ものがたり：①学問・芸術文化のふるさと、②郷土の暮らし、③ため池・疎水と生業、④祭りと信仰、⑤人・物・情報の十字路口、⑥播磨のなかのふくさき

分類	名称	年代	概要	歴史文化ものがたり						
				①	②	③	④	⑤	⑥	
建造物 石造物	13	石灯笼（大歳神社）	昭和 11 年 (1936)	石灯笼。正面には「献灯」、左に造立年月が記されている。				●		
	14	手水石（大歳神社）	天保 15 年 (1844)	手水石。正面に「清水」、右に造立年月日が記されている。				●		
	15	手水石（醫王寺）	明治 22 年 (1889)	手水石。正面に「清水」、右に造立年月日が記されている。				●		
	16	狛犬（大歳神社）	昭和 5 年 (1930)	石造狛犬。現在は本殿北の造営記念碑前に移設されている。				●		
	17	玉垣建設記念碑（大歳神社）	昭和 21 年 (1946)	玉垣建設を記念して建てられた石碑。				●		
	18	五輪塔（神谷墓地）	不明	五輪塔の残欠、奉籠孔あり。				●		
	19	石段標（醫王寺）	寛保 2 年 (1742)	左右一対の石段標。右柱正面に造立年月日、左柱正面に「願主 当村拾四人」と記されている。				●		
	20	石段標（大歳神社）	寛政 7 年 (1795)	石段標。正面に造立年月日が記されている。				●		
	21	石段標（醫王寺）	大正 7 年 (1918)	左右一対の石段標。右柱正面に造立年月、左に「現住寺嵩栄□□」、背面に施主、左柱正面に「信者中」、右に発起人、左に「后藤□□」と記されている。				●		
	22	石棺蓋石（醫王寺）	不明	家形石棺の蓋石。名号塔の台石に使用されている。				●	●	
23	百度石（大歳神社）	不明	百度石。				●			
美術工芸品 絵画	24	景清の牢破り図（大歳神社）	明治 37 年 (1904)	奉納者は「青年社中」とある。図柄概説、別記。歌舞伎十八番のうち景清の一場面。景清は日ごろ信じていた清水寺観世音の加護で、堅牢を打ち破るくだり。92×120 cm。	●			●		
	25	神武天皇御東征図（大歳神社）	昭和 11 年 (1936)	奉納者は「当村青年団」とある。剥落が多い。128×192 cm。	●			●		
	26	源平布引滝 2 段目切図（大歳神社）	明治 10 年 (1877)	奉納者は「当村氏子」とある。107.5×186 cm。	●			●		
	27	梶原源太□梅（大歳神社）	明治 37 年 (1904)	奉納者は「当村青年社中」とある。89×119.5 cm。	●			●		
	28	十二支図（巳）（大歳神社）	不明	奉納者は「亥年男 23 才」とある。21×24.5 cmの小絵馬。	●			●		
書跡・典籍・古文書・歴史資料	29	神谷区有文書	—	16 件（点数不明）。		●				

※歴史文化ものがたり：①学問・芸術文化のふるさと、②郷土の暮らし、③ため池・疎水と生業、④祭りと信仰、⑤人・物・情報の十字路口、⑥播磨のなかのふくさき

神 谷

分類	名称	年代	概要	歴史文化ものがたり						
				①	②	③	④	⑤	⑥	
有形の民俗文化財	祭具	30	屋台 (神谷区)	—				●		●
無形の民俗文化財	年中行事・民俗芸能	31	秋祭り (福崎)	—			●	●		●
		32	トンド	—				●		
		33	初午	—				●		
		34	斎灯	—				●		
		35	夏まつり (子ども相撲)	—				●		
		36	地藏盆	—				●		
		37	ニジュウソ	—				●		
遺跡	古墳・その他の墓	38	神谷古墳	古墳時代 (7世紀前半頃)		●				

※歴史文化ものがたり：①学問・芸術文化のふるさと、②郷土の暮らし、③ため池・疎水と生業、④祭りと信仰、⑤人・物・情報の十字路口、⑥播磨のなかのふくさき

分類	名称	年代	概要	歴史文化ものがたり						
				①	②	③	④	⑤	⑥	
遺跡 散布地・集 落跡・生産 遺跡等	39	前田遺跡	中世	五輪塔が確認され、中世後半に墓地として利用されていた可能性が高い。発掘調査では、12世紀後半から13世紀の土師器、須恵器、白磁が出土し、その時期の掘立柱建物の遺構や水田の遺構も確認されており、墓地の他、生活空間としても利用されていたことが分かっている。		●				
	40	観音堂遺跡	奈良時代 ～中世	市川支流の七種川によって形成された段丘面並びに氾濫原にあたり、北西から砂州状に延びる微高地上に遺跡が位置したと考えられる。奈良時代から中世にかけての土坑、溝、ピット（小さな穴）が確認されている。		●				
	41	宮ノ前遺跡	弥生時代 ～中世	遺跡内には旧河道が存在する。弥生時代後期の竪穴住居跡、奈良時代から鎌倉時代にかけてのピット（小さな穴）、土坑、溝、落ち込みも確認されており、瓦葺き建物があった可能性を示唆する瓦や、稜椀と中国製の輸入陶磁器も出土している。		●				
	42	矢口遺跡	奈良時代 ～中世	官人の身分を証明する道具の一つである金銅製の帯金具を出土。また、掘立柱建物の遺構も検出され、奈良時代から中世にわたる遺跡であることが確認されている。		●				
	43	神谷ヤブノハナ遺跡	奈良時代 ～平安時代	奈良時代から平安時代の集落遺跡。		●				
名勝地	山岳	44	大倉山	－		●				
	河川・滝	45	七種川	－		●				

※歴史文化ものがたり：①学問・芸術文化のふるさと、②郷土の暮らし、③ため池・疎水と生業、④祭りと信仰、⑤人・物・情報の十字路口、⑥播磨のなかのふくさき

神 谷

分類	名称	年代	概要	歴史文化ものがたり						
				①	②	③	④	⑤	⑥	
名勝地	河川・滝	46	大内川	—	延長 2,600m。初夏にはホタルが舞う風景が見られる。					
		47	矢口川	—	延長 495m。矢口のため池から大内川に注ぐ。					
文化的景観	生活・生業・風土により形成された景観地	48	神谷皿池	—	大正以前に建設されたといわれており、受益面積 10ha、流域面積 0.063 km <sup>2</sup> 、満水面積 0.26ha、貯水量 4,200 m <sup>3</sup> 、堤高 4.7m、堤長 48mを計る。					
		49	東光寺池	—	堤高 3.8m、堤延長 49m、貯水量 4,200 m <sup>3</sup> のため池。受益面積（単独）は 8.5ha。管理団体は長野区。					
		50	前池	—	中の島（弁天様）。堤高 5.3m、堤延長 74m、貯水量 21,000 m <sup>3</sup> のため池。受益面積（単独）は 10.3ha。					
		51	矢口口池	—	矢口池周辺の新緑・紅葉が福崎百選に選ばれている。堤高 7.8m、堤延長 136m、貯水量 39,300 m <sup>3</sup> のため池。受益面積（重複）は 22.0ha。管理団体は長野区。					
		52	矢口中池	—	矢口池周辺の新緑・紅葉が福崎百選に選ばれている。堤高 5.0m、堤延長 57m、貯水量 3,000 m <sup>3</sup> のため池。受益面積（重複）は 22.0ha。管理団体は長野区。					
		53	矢口奥池	—	矢口池周辺の新緑・紅葉は福崎百選に選ばれている。堤高 12.0m、堤延長 88m、貯水量 56,400 m <sup>3</sup> のため池。受益面積（重複）は 22.0ha。管理団体は長野区。					
		54	矢口林道からの風景	—	農地やため池の広がる生業の風景。					
その他	信仰の場	55	醫王寺	—	法道仙人が開基したと伝わる天台宗の寺。本堂の北に町内唯一の方墳である神谷古墳（町指定文化財）がある。沙羅の大木やササユリも有名である。					

※歴史文化ものがたり：①学問・芸術文化のふるさと、②郷土の暮らし、③ため池・疎水と生業、④祭りと信仰、⑤人・物・情報の十字路口、⑥播磨のなかのふくさき

分類	名称	年代	概要	歴史文化ものがたり						
				①	②	③	④	⑤	⑥	
その他	信仰の場	56	大歳神社	—				●		
	寺社の行事	57	花まつり	—				●		

※歴史文化ものがたり：①学問・芸術文化のふるさと、②郷土の暮らし、③ため池・疎水と生業、④祭りと信仰、⑤人・物・情報の十字路口、⑥播磨のなかのふくさき

- ・ 醫王寺により神谷古墳周辺の整備が実施されています。
- ・ 神谷屋台保存会を組織し、区に伝わる秋祭り屋台、伊勢唄、祭囃子等の保存・継承に取り組んでいます。



神谷古墳周辺の整備